

稲作だより

第 1 号

令和 7 年 3 月 18 日発行
やまがた温暖化対応
米づくり日本一運動
西村山農業技術普及課
TEL : 0237-86-8287

まもなく令和 7 年度の米づくりが始まります！**土づくり**と充実した**苗づくり**で、気候変動に負けない稲づくりを始めましょう！！

春作業の重点ポイント

〈土壌環境づくり〉

- 1 **有機物やケイ酸等土づくり資材を投入している。**
 - ・ 稲は窒素の 10 倍ものケイ酸を吸収する作物です。土壌のケイ酸含有率を高く維持することで、光合成量が低下しにくくなり、高温による収量・品質への影響を小さくすることができます。
- 2 **品種、地力に応じた施肥設計を行っている。**
 - ・ 施肥量は多すぎないですか？昨年タンパクが高めの場合は施肥量を検討しましょう！
 - ・ 堆肥を施用したら必ず減肥！
 - ・ 「つや姫」、「雪若丸」はマニュアルに基づく施肥量を遵守！
- 3 **耕深を確保し、健全な根の生育環境づくりを行っている。**
 - ・ 耕深が浅くなると、根域が浅くなり、収量や品質が低下します。
 - ・ 耕深は 15 cm 以上を確保しましょう！

〈充実した苗づくり・適期移植〉

- 4 **充実した苗づくりを行っている。計画的に播種作業を行っている。**
 - ・ 近年、育苗期間の高温や播種量の増加で軟弱徒長苗、老化苗が増えています。育苗期間が気温や播種量に対応した播種計画となっているか、改めて確認し、健苗育苗に努めましょう！
- 5 **適期移植を行っている。**
 - ・ **移植適期は 5 月 15 日～20 日**です。遅くとも 5 月 25 日には終わる計画を！
 - ・ 移植適期内に田植えを行うことで、生育量が確保しやすくなります。
- 6 **適正栽植密度、適正植え付け深で田植えを行っている。**
 - ・ しっかりと莖数を確保するため m² 当たり 100 本は植えこみましょう。
 - ・ 深植えはせず、植え付け深は 3～4 cm。浅水管理で生育促進！

健苗育苗のポイント

(1) 育苗スケジュールは計画的に

	播種量	育苗	作業スケジュール			
	(乾粃g)	日数	塩水選	浸種	播種	田植え
高密度播種苗	240~300	15~20	4/13	4/14~24	4/25~5/1	5/15~20
稚苗	150~180	20~25	4/8	4/9~19	4/20~25	
中苗	80~120	30~35	3/28	3/29~4/9	4/10~15	

・播種量が増えると、育苗後期に苗質が低下しやすいので、育苗期間は短くしましょう。

(2) 種子消毒

- ・薬剤処理は、必ず希釈倍数、使用時期、使用方法を確認して行いましょう。
- ・薬液の処理ムラが出ないように、種子袋1枚に詰める種粃量は5kg程度にしましょう。
- ・薬液の水温が低いと効果が劣る場合があります。薬液の水温は必ず10℃以上を確保しましょう。
- ・温湯種子消毒した種粃は、病原菌の付着を防ぐため、直接床やトラックの荷台等に置かず、袋ごとつるすなど清潔な場所に保管しましょう。

(3) 浸種

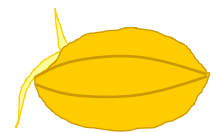
- ・水温10℃~15℃、積算温度(日平均水温×日数)で「120℃」を目安に浸種を行いましょ。
- ・浸種開始時の水温が低いと発芽率が低下します。浸種開始時の水温は10℃以上15℃未満となるよう徹底しましょう。
- ・水温が15℃を超えると、ばか苗病の発生リスクが高まるので、15℃を超えないよう注意しましょう。
- ・浸種時は2~3日ごとに水を交換し、時々種子袋の上下を入れ替えるなどして、酸素不足や温度ムラがないように管理し、定期的に水温が適切か温度計で確認しましょう。

(4) 催芽

- ・催芽は30~32℃で20時間を目安に、ハト胸状態になったのを確認して播種作業を行いましょう。



ハト胸状態



伸ばしすぎ

LINE を活用した情報提供を行っています。
QRコードを読み取り登録の上、ぜひご利用ください！



STOP 農作業事故!! 農薬適正使用を推進!!